

## 新たな「学制：5－4－4制」を構想する

現在の学校教育制度ができた頃に比較して、子どもの発達状況、家庭や社会環境は大きく変貌している。たとえば5歳児のほとんどが幼稚園・保育所に通っているし、また高校への進学率は約97%になっている。なお、中学、高校の各3年間は中途半端である。

こうした状況をふまえ、5歳児就学を制度化し、以下のような学制を構想する。

### ○小学校<5年制：5歳～9歳>（現在の幼稚園・保育所の年長組と小学校4年生）

5年制小学校は、「社会参加型」（体験）学習と基礎学力育成を中核とする。低学年では遊び重視の教育を行い、幼児保育期からの移行を円滑にする。小学校には学童保育を併置し、子どもたちの放課後の生活を支えるようにする。

### ○中学校<4年制：10歳～13歳>（現在の小学校5年生～中学校2年生）

4年制中学校はうう、受験のための暗記学習ではなく、教師と生徒との、さらには生徒同士の対話による思考能力形成をはかることを重視する。部活動は地域などの指導者の協力を得る。

### ○高等学校<4年制：14歳～17歳>（現在の中学校3年生～高校3年生）

4年制高校は総合制とし、生徒自らが学習スケジュールを組み、キャリア学習（職業学習を含む）を行い、自分の将来や適性などがじっくり考えられるようにする。インターンシップや自らの意思に基づにはくボランティア活動も教育課程に組み込むことにする。

高等学校は準義務教育機関とし、すべての希望者に開かれる。したがって、入学選抜は行わない。

参考：学制改革検討委員会「学制構想案」